

## 平成27年度 第1回公設福祉医療センター運営懇話会会議録

開 催 日 時	平成27年 5月29日（金）午後2時00分～午後3時30分	
開 催 場 所	公設宮代福祉医療センター 3階会議室	
出 席 者	委 員	石井会長、田部副会長、高橋委員、小田桐委員、馬場委員、竹本委員、星野委員、重田委員
	事務局	石井センター長、澤田診療所長、秋山事務次長、岡村健康介護課長、齋藤子育て応援室長、伊東保健センター所長 竹花主幹
欠 席 者	伊草委員、須藤委員	
傍 聴 者	なし	
配 布 資 料	次第、運営懇話会資料	
会 議 録 作 成 者	竹花	

1. 開 会（進行：伊東所長）

2. あいさつ

榎本町長あいさつ

石井センター長あいさつ

会長あいさつ

3. 議 事（進行：会長）

1) 平成26年度公設宮代福祉医療センター利用状況について

（事務局より説明P1～P3）

－質疑応答－

委 員：入所人数が前年比で減っていて、述べ入所者数が増えているのは一人当たりの入所日数が増えているという認識でよいのか。

事 務 局：比較するとそれほど大きく増えている訳ではない。25年度は長期に入所している方が亡くなったり、体調が悪化して病院に入院して出て行かれる方が多く、出て行った場合は当然ベットに空きがでるという状況であり、空けば次の方に入所していただくとかといった状況が25年度であり、出入りが多かったという結果である。逆に26年度は前年と比較すると、それほど状態が悪くなる方が多くなかったのも、それほど出たり入ったりは少ない状況であり、落ちついて長くいるという状況である。

委 員：そうすると、前年は短期で出入りする方が多かったということで良いのか。

事 務 局：多すぎたのが実情である。

2) 平成26年度公設宮代福祉医療センター損益計算書について

(事務局より説明P4-P5)

—質疑応答—

委員: 税引き前利益と税引き後で同額ということは、税金は払わないということか。

事務局: 公益法人としては、公益的な事業を行うことを前提にしているので無税である。その代わりに、公共性の高い事業を行う必要がある。

委員: 税引き前の利益が大きくても税金は払わなくてもよいということか。

事務局: その代わりに、公益事業の負担金は負担している。

委員: 利益に対して負担率は上がるということか。

事務局: 割合なので金額が上がれば、当然金額も上がる。

委員: 前も800万円か何かなかったか。

事務局: 平成23年頃にこの金額がでていた。24・25年は非常にぎりぎりだったのでなかった。前年もあまりに少なすぎたのでなかった。今回は前年に比べてあまりに利益が大かったので、それに対してかかってくる。

3) 平成26年度公設宮代福祉医療センター改善内容

(事務局より説明P6-P7)

—質疑応答—

委員: 通所リハビリのところで、外食会とか買い物ツアーとかあるが何日ぐらいで何名ぐらいの参加があるのか。

事務局: 基本的にこの月に1日用意して、希望される方が参加する方法である。大体、車3台なので15人ぐらいの参加である。

委員: 通所リハの方はスカイツリーとかに行くみたいだが、老健の方々は中だけのお楽しみなのか。外へ出かけることは考えていないのか。入所した方は外へ出る機会がどんどん減っていく。デイに通っている方はご家族がたまに連れて行くこともあると思う。

事務局: 外出するにあたり、ある程度、自分で車椅子をこいだりとかできる方が入所の方は非常に少ない。平均の介護度でみると入所の方は平均3.8である。大体、全国的な老健の平均介護度が3.1とか3.2であるので、それよりもはるかに高い4に近い状況の方が利用している。基本的に3以上の方はほぼ車椅子、また寝たきりに近い状況であると考えてもらえばよい。それから考えると非常に虚弱な方が多い。例えば遠足、そういう方を30分以上バスに乗って何処かに行かなければいけない。バスに乗って耐えられるかという、正直なかなか厳しいと思う。例えば、毎日レクレーションとして、2時から2時半まで活動しているが、この30分間だけでも起きている人はそんなに多くは無い。やはり1時間となると、ずっと起きてるのは困難な方が多いと考えていただきたい。対象となる方が多ければ何らかのサービスは考えていきたいが、現状の利用者さんの身体状況を考えると難しいと考える。

事務局：遠足はリハビリの方が対象で行っている。入所している方の長時間の外出は難しい。ただ、本当の近場で、正月だと直ぐそこでだが初詣に行くとか、この辺は桜がきれいなので、何回かに車を分けて、花見がてら出掛けるとかの外出は行っている。ただ本格的なスカイツリーとかを考えると、行って食事をして、実際に展望台まで行くとかは難しい。そのため、ほぼ車で移動して、車の中から見学してもらおうとか、車の中から短時間でもお参りしたりとかはできる。

事務局：以前は入所もあったようだが、段々状態が悪くなってきて難しくなっていると聞いている。

委員：以前は通所のときにボランティアが20人位参加して、マンツーマンでお手伝いをさせてもらったが、通所でも大変なので、入所の方を半日以上外に出すのは不可能だと思う。どこに行っても施設の中にいるように設備の整っているところはないと思う。例えば、スカイツリーでも最低1時間か1時間半車に乗って行かなければならない。向こうに行って帰ってきたら半日じゃ終わらない。

委員：大宮の鉄道博物館とかでも、通所の人でもトイレの時間が耐えられない。そこが一番の問題である。どうしてもそこに連れて行かなければならないのなら、やっぱり家族がやるべきだと思う。本当はどこかでやってくれば、家族の負担が減るとは思うが。

委員：介護保険制度が始まった当時の老健の目的は、入院とかして安定期に入り、リハビリに入り、自宅に帰るっていうのが目的だったと思う。自宅に帰るのが困難になり、他の施設に行ったりとかあると思うが、六花では自宅に帰れる率はどのくらいか。

事務局：在宅比率というものがあって、平成27年の介護報酬の改定で、在宅復帰率が高く30%以上超えた場合は加算ということで、1日27単位加算できる。50%を超えると約60単位プラスになることになった。こちらの在宅復帰の率は10%切る状況である。こちらに来ていただける方の家族の方の状況をみると、家族で目一杯介護をして、もうこれ以上できないとなってから施設にあずけられるという人が多い。そうすると、なかなかここでリハビリをして元気になって、いざ帰ろうといっても、家族の方が、もう、ちょっと勘弁してください。という状況が少し多いと聞いている。介護をしている途中で状態が悪くなら、ここに入ってリハビリをして元気になって帰れば、また、在宅生活が継続できますよという話ができれば良いのだが。今の現状では、そのような状況ではないので、在宅に帰る方の率は減っている。

委員：外に連れ出すのが難しいということは分かった。それなら、他から誰かを連れて来て演芸をやるとか、一緒に歌を歌うとか、そういう様なことを中でできないか

事務局：イベントとしてやっている。

委員：ここにはあげていないが、色々なクラブ活動をやられていて、日々はテープをかけて歌を歌ったりとか、何もやられていないわけではない。

事務局：ボランティアの方には当初からお世話になっており、季節毎に敬老とかも開催している。その他、寄席みたいなことも行ったりしている。入所している方以外にも通所している方も一緒に楽しんでいる。ここは保育園も併設しているし、障がい者の方とのふれあいの場でもあるので、団体の方々と一緒に年に2回位イベントを開催している。

委員：先ほど改善点ででていた園芸について、保育園の子たちが上に来て一緒にやるが、入所している方は小さい子を見ると非常に喜ぶというか穏やかな顔になる。幸いなことに、ここは保育園が付属しているので、用事毎に園児が来てくれて一緒にやっているのも、他の施設より接触の部分では多く、良いところがあると思う。

事務局：他の施設でも、幼稚園とかと連携して園児が来ているという話を聞いたこともある。ここは、普段からお子さんの遊んでいる声が聞こえる。先ほど話のあったように、実際にあらたまって場を設けるのは年に何回かであるが、普段から日常的にお子さんの声が響いて聞こえてくるのは良いことだと思う。

事務局：今年の2月に埼玉県の監査があって、2階に貼ってあった写真を見て、監査員が毎月何かをやっているんですね。と言っていて、こんな施設、今はほとんどないです。とかなり高評価であった。基本的に入所の場合は外に出る機会がないので、外から呼んで来ていただいて、そこで中にいる人たちに提供するという形は開設以来ずっと行っている。昨年と違うところを書くことになっているので書いていない。今までと違うところを書くので少なく感じるかもしれないが、職員もない知恵を絞って頑張っている。

委員：老健施設は復帰するための施設ではないかということだったが、期間が長くなるとどうしても出て行けと言われる。どうしようもないので、他の施設を探して移った結果、やっぱりここが良いと言っていた。実際に入所してみると、スタッフの数が明らかに少ない。少ないということはそれだけ面倒見が悪いということにもなる。暫くそこで辛抱して、そのうち、ここに戻ってきたいと言っていた。保険制度の仕組みがあるか分からないが、長期に入所しながら1週間ぐらい通って、また長期に入所したりしていた。帰ってきてもデイに通ったりしていて、あれはどういう仕組みなのかと思っていた。

委員：過去に六花を訪問させてもらったことがあるが、この周りの環境がほかの施設にはないと感じている。

委員：施設に入ると帰れないで、そのまま息を引きとるというイメージが凄くある。そうすると、施設にできるだけ入らないように、一人で何でもできるようにするのが一番良いわけである。そういう風にするためには、一人一人の

健康というのをできるだけ行政でバックアップすることが非常に重要である  
と考える。どうしても施設に入るとそれだけで終わりだと言う事じゃ～、何  
のための施設なのかと思う。やはり、施設に入ってリハビリをして戻ればそ  
れが一番良いわけである。家族と一緒に生活する。そこまで行かないうちに  
体はある程度、維持するというようなことが重要となってくる。自分も昨年  
一年間歩けないような状況で過ごしたが、自分で復帰する努力が必要になる。  
それをバックアップするところがあればよい。

委 員：このリハ室にはスポーツセンターにあるような器具を置いてあるが、リハ  
室で毎日それにあつた運動に使用している。意欲がある人は積極的にやる。  
2階でやるリハビリにしても意欲のない人は一切やりたがらない。足が痛い  
の腰が痛いのでリハビリは休むと言って部屋から出てこない人も結構いる。

委 員：それを、どのようにやる気にさせるかが重要になる。

委 員：町も事前の介護を受けない為に、健康体操だとか色々取り組んでいるよう  
である。

委 員：家に行くと足も悪いからと、玄関までは出て出てくる人もいる。玄関から声  
を掛けると、外からは～いという人もいる。そういう人は健康のために散歩  
をしているとか言っている。多少諦めている人を、いかに諦めないで頑張れ  
るようにすることが必要なのではないかと思う。

委 員：それを一つの医療機関に求めてもなかなか難しいかもしれない。ただ、行政  
が何でも出きるわけでもないだろうから。

委 員：今の意欲がある人の話しの中では、六花で健康診断をした人で、体脂肪が多  
いとか何かあると、保健センターの方で体操しますからどうですか。とか声  
を掛けてもらえて、参加すると週に1回とか運動を教えてもらいに行くこと  
ができ、何ヶ月か行ってある程度数値が戻ってくると卒業ですよって言われ  
る。そういう努力をしている人もいる。町の保健センターも一生懸命、緻密  
に充実していられるように考えていると思う。ただ、認知症になると、一人  
で歩けるところが危ないからと引き止めるくらいになる。そうになると、デイ  
サービスとかデイケアでお世話になる方が安心である。熱中症の恐れがある。  
年齢的に電気代がもったいないからと、エアコンを切ってしまう。冬は寒い  
といくらでもエアコンも暖房もコタツもつけるので、夏も冬も脱水が心配で  
ある。そういった症状が出てくるとどうしようもない部分があつて、家族が  
いくら看ていても看切れない部分がある。だから一時的に助けてもらい、そ  
の後在宅になる利用の仕方もある。

事 務 局：今言われた方法が本当の老健の使い方だと思う。家族の基本は、在宅で面倒  
を見る。ただ、どうしても看られない時はこんな所を使ってもらおう。今はそ  
こで健康状態を確認するという意味で使ったり、短期的にリハビリに使って  
帰る場合が多い。3ヶ月ではあるが、制度上1日20分程度であるが週5日

は利用することができる。毎日リハビリをして元気になって帰りますよという事例は、残念ながらここではないが、他の老健ではそういう事例もある。初期の早い段階で老健を使って、利用者の体の状況を確認してその方に合わせたプログラムを作り、量と負荷をきちんと決めてあげないと成功しなくなってしまう。特に男性の場合はリハビリをして体を壊してしまうということもある。そのように、その方に合わせたリハビリのプログラムの提供ができるのは老健だけである。

委員：早目に利用できれば良いと思う。検査値が高かったことがあり、保健センターから連絡が来て夫婦で参加し、講習を受けてすごく勉強になった。もし引っかからなかったら、今の状態でずっと続き悪くなったかもしれない。やはり健康診断は大切だと思う。保健センターの方には感謝している。

事務局：是非、健康診断は1年に一回はやって欲しい。

#### 4) 平成27年度公設宮代福祉医療センター診療体制 (事務局より説明P8)

##### －質疑応答－

委員：整形外科は医師が足りない現状があるらしい。若い医師は手術ができるところを希望するらしい。ここは高齢者が多いのか。

事務局：ほぼ、高齢の方が多い。

委員：骨折しても月に3回ぐらいしか来ない先生では、続けて診てもらえない。皆さん、六花が夜間対応してくれるのはご存知ですか。設立当初から、当直の医師がいて、24時間体制で診てくれる。これが町内に浸透していないという現状がある。夜中に急にお腹が痛くなった。救急車を呼ぶほどではないが心配だということであれば、六花に電話して診てくれるかって聞けば診てくれる。

委員：それは土日でもか。

事務局：夜間及び日曜日祝日、とりあえず交替で医師は配置している。いわゆる一次対応という形で行っている。ただ、検査までは対応していない。診察は行えるので、まずは電話で問い合わせさせていただいた中で対応する。

委員：土日はダメなんだというところが多い。

委員：普通は大病院では診てくれない。その為にはホームドクターとして六花を利用し、普段は六花に掛かっているが、状態が悪くなったら、ここで紹介してもらえれば大病院に掛ることができる。国も掛りつけの医者をつくれとか、薬剤師も掛りつけをとっているようだ。その点からも利用価値が高い施設だと思う。

委員：夜中、インフルエンザの時に高熱で掛ったことがある。電話したら、直ぐに来てくれと言われた。尿管結石の石でひどい痛みの時に電話して診てもらっ

た。すごく助かった。

委員：今までも、もっと六花を宣伝したらどうかという意見もあった。医療機関の宣伝は色々難しい部分があるようだ。

5) 公設宮代福祉医療センター運営に関する意見・要望について  
特になし

6) 交流事業について

第1回7月8日(水) 10時～ 宮代保育園

4. 閉 会